

11月7日

聖書 ローマ人への手紙4章1～8節

罪の赦される幸い

4:1 それでは、肉による私たちの先祖アブラハムのばあいは、どうでしょう。

4:2 もしアブラハムが行ないによって義と認められたのなら、彼は誇ることができます。しかし、神の御前では、そうではありません。

4:3 聖書は何と言っていますか。「それでアブラハムは神を信じた。それが彼の義と見なされた。」とあります。

4:4 働く者のばあいに、その報酬は恵みでなくて、当然支払うべきものとみなされます。

4:5 何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めteくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。

4:6 ダビデもまた、行ないとは別の道で神によって義と認められる人の幸いを、こう言っています。

4:7 「不法を赦され、罪をおおわれた人たちは、幸いである。

4:8 主が罪を認めない人は幸いである。」

説教 罪の赦される幸い

今年のイースターの前までローマ書を学んでいました。

ローマ書4章1節で「それでは、肉による私たちの先祖アブラハムのばあいは、どうでしょうか。」と書かれている所にさしかかり、しばらくローマ書を離れ、創世記からアブラハムの生涯と信仰を学びました。アブラハムのあゆみを心に留めて、再びローマ書の学びを続けましょう。

アブラハムが神様の前に
正しい、義と認められたのは
行いによってではない、
働きによってでもない、
罪人のアブラハムは信仰によって義と認められた
との創世記の記述をもとにして
信仰による救い、信仰による義認をパウロは論証しています。

先週、10月31日は何の日でしょうか。

①シンガポールデー

②ハロウィン

③宗教改革記念日

1517年10月31日、マルチンルターは95箇条の提題をヴィッテンベルクの教会の扉に貼り付けました。これがきっかけでヨーロッパで宗教改革が広がって行きました。

ルターの時代、カトリック教会は免罪符を売っていました。
免罪符を買えば罪が赦され、天国へ行けるという間違っ
た教えがまん延していました。
それに対してルターは抗議、抵抗、プロテストをしました。

当時のカトリック教会には3つの間違いがありました。

① 善行による救い。

救われるためには良い行いをしなければならない。

献金、断食、修道院へ行く、免罪符を買うなど。

良い行いをすれば天国へ行けるという間違った教え。

②煉獄の教えを信じていた。

生きている間に犯した罪が行った善より多いと、
その期間煉獄の燃える火の中で
苦しまなければならない。

キリストのために殺された聖人と言われる殉教者以外は
すべての人は煉獄の火の中で苦しまなければならない。

聖書には煉獄は出てきません。

煉獄は存在しません。間違った教えです。

③ 功德の通効。

生きている時の善、徳が罪より多いと、それを他の人にあげることが出来ると言う徳が人の間を移動できると言う間違った教え。

殉教した人は聖人となる。聖人は徳を沢山持っている。他の人にあげることが出来、もらった人は天国へ行ける。それで聖アグネスさま、とか聖アンナ様、徳を分けてくださいと聖人に祈っています。徳を無限に持っているのは原罪のないと言われたマリヤ様だけ。それでカトリック教会では

イエス様に祈るよりマリヤ様に祈ります。

これも聖書に照らして間違っています。

ルターの時代、ティツェルと言う男がヴィッテンブルグの町で免罪符を
売っていました。

免罪符を買いなさい、買いなさい。

免罪符を買ったお金がチャリンと箱に落ちた瞬間、あなたの魂は天
国にチャリンと飛び上がって行くよ。

あなたのおじいさんは貪欲な人で、今、煉獄の火の中でもだえ苦し
んでいる。じいさんのために免罪符を買ってあげなさい。免罪符を
買ってお金がチャリンと箱に落ちた瞬間におまえのおじいさんの魂は
天国にチャリンと飛び跳ねるのだよ。おばあさんのためにも買ってあげ
なさい。

こんなテイツェルの演説がドイツの町々村々で響き亘って
いました。

特に11月1日は万聖節、死んだ人々を覚える日。
この日にテイツェルは特に、煉獄で苦しんでいる先祖のために
免罪符を買うように強要していました。

それでルターは万聖節の前日10月31日に
ヴィッテンベルクの教会の扉に95箇条の提題を貼り付けました。

ルターは救いに必要な3つのことを教えました。

① 救われるためには信じるだけ。

信仰のみ。

②その根拠は人の教えや教会の教えでなく
神様が語られた聖書に権威があります。

聖書のみ。

③この救いには特別な人だけでなくだれでも与れます。

恵みのみ。

3つの「のみ」の原則です。

ルターはローマ書3章23～24節の救いの恵みをはっきりと教えて、宗教改革が始まり、私たちも神様の恩恵の内を歩んでいます。

「すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」

私はローマ10章9～10節を読んで確信を持ちました。
「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの
心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信
じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と
認められ、口で告白して救われるのです。」

今日もスプロック先生のビデオメッセージ第二回目を聞きました。

スプロンク先生はオランダの教会の中で育って来られた先生。
1517年、ルターの宗教改革。ルターはドイツ、カルビン、ツィン
グリーはスイス、オランダで宗教改革。
聖書を神のことばと信じ、信仰によって救われることを確信し、
神様の恵み、愛によって伝道する、神様の力、選び、ご計画、
摂理がスプロンク先生の説教、生き様にしみこんでいる。

∴ 天地が造られる前から

天地創造／基礎／土台から

- 神とイエスの相互の愛；神がイエスを愛したように、人間を愛した
- キリストのうちに選ばれた事世界の基の置かれる前から
- イエスによる贖い



ジェームス・カーティス・ヘボン
James Curtis Hepburn



ジェームス・ハミルトン・バラ
James Hamilton Ballagh



ウィリアム・メレル・ヴォーリス



ウィリアム・メレル・ヴォーリス (1905年)

江戸末期に日本に最初に来たプロテスタント宣教師。
アメリカの東海岸から、アフリカのケープタウンを回り、
インドに寄港し、シンガポール、マカオ、アモイ、などを通っ
て、半年ほどの長い船の旅で日本にたどり着いて伝道を始め
めた。バラは四国の高知沖にまで来たとき、台風に遭い、
船はあわや沈没、祈りの中で助かり、横浜に上陸、伝道。
ポーリス先生は1902年八幡商業の英語の教師として来
られたが聖書を自宅で教えたことから2年で解雇。でも生
涯日本にとどまって証しの生涯を全うされた。

神様の計画、選び、主権的力を確信して、人生を神様におゆだねして、危険の中でも主を信じて、楽天的な宣教師生涯を送られた。

聖書に生かされ、信仰によってあゆみ、恵みに満たされ、このように生きた先輩たちをまねて、豊かな信仰に満たされて歩んで行きたいと思います。

祈り